

評価委員会会議

評価委員会

1. 報告事項

平成27年度の取組実施状況とその成果について

2. 協議事項

平成27年度の取組の評価について

平成28年3月1日（火）

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」評価委員会委員長のコメント ～第3回中間評価（平成27年度）実施について～

評価委員長 丸山 徹

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が取り組んでいる「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業が、平成27年度に文部科学省が実施した「大学間連携共同教育推進事業中間評価」において、地域連携分野の全国25事業の中で唯一の最高評価（S評価：当初計画を超えた取組であり、本事業の目的を十分に達成することが期待できる）を受けた。

文部科学省からは、3大学8学部が、県内の多様な専門職能団体や自治体と幅広く連携しながら、学長のリーダーシップの下で各大学の特色を生かした事業の推進を図っていることが大きく認められた。また、事業計画の改善に対して、本評価委員会からの提言を積極的に取り入れている点も高く評価された。

その結果、当初予定には無かった新規事業を実施する目的の追加予算が年度途中で配分された。そのため、本評価委員会からのこれまでの提言を取り入れた形で、新たに「NICEキャンパス長崎」に開講している「大学間単位互換科目」の授業内容のエッセンスを「WEB講座」として動画配信する事業計画を追加し、本年度内に完成させることになった。この「WEB講座」では、20本を超える講義の動画を配信する計画になっているが、学生達が在宅療養支援の現場の臨場感を学べるように、主として医師会や看護協会など大学外の職能団体の専門職が講師を担当する計画である。

平成28年2月1日に推進委員会の中嶋委員長から「平成27年度 of 取組実施状況とその成果」について説明を受けた際に、下記の「年度当初の事業計画6項目」について「評価委員会による第3回中間評価の実施」以外は、計画通りに実施できていることを確認したが、新規事業の「WEB講座」の動画配信については未完成で、今はまだ評価ができる段階では無いと判断した。

【年度当初の事業計画6項目】

- ① 本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会の定期的な開催並びに事業推進計画の打合せを行う作業会議の頻繁な開催による実行性ある連携教育を展開するための体制構築
- ② 広報活動・成果発表・情報発信の継続及び広報実施のあり方の検討
- ③ 平成26年度に「NICEキャンパス長崎」に科目登録・開講した大学間合同による13科目の継続実施
- ④ 本事業活動の情報発信を目的としたシンポジウムやフォーラム等の開催
- ⑤ 多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育に関する教育セミナー等の開催
- ⑥ 評価委員会による第3回中間評価の実施

このような状況を鑑み、評価委員会委員長として、文部科学省の中間評価の結果を、本評価委員会の第3回中間評価の結果に代えさせて頂き、平成27年度 of 取組については当初予定のとおりあるいは予定以上に実施されているとコメントしたい。

次年度は本事業の最終年度に当たるため、本評価委員会による最終評価を実施するが、すでに連携3大学では支援期間終了後の取組継続を見据えた活動を開始していることから、最終年度における取組の更なる進展を大いに期待したい。